

## 第42回 学校評議員会 会議録

令和元年7月16日(火) 14:00～15:30

弘前高等学校 応接室

出席者 評議員 4名…赤石 茂 氏、木村 直美 氏、川村 能人 氏、前田 一隆 氏  
学校側 校長、教頭(司会)、事務長、教務主任、進路指導主任  
進路指導主任、教務部員(記録)

欠席者 中根 明夫

### 1 学校評議員委嘱

### 2 自己紹介

### 3 校長挨拶

校長 : どうしても教員からの視点でものを見てしまう。その際に、学校評議員の皆さまからの外部の視点が、非常にありがたい。今年度もよろしく願います。

### 4 ねぶた制作見学

学校側参加者と共に校内、地下駐車場の作業場を見学。

### 5 意見交換 『平成31年度学校経営方針』について

校長 : 令和4年度から学習指導要領が改定となり、主体的・対話的深い学びの実現に向けて授業改善が求められる。総合的な学習の時間においてこれまではねぶた制作を行っていたが、今年度の1年生からは行事に位置づけた。それにより、より探究的な活動を行うことができるようになる。

校長の思いとして「凡事徹底」、「失敗を恐れない」、「思いやり」を各項目に散りばめている。生徒たちにぜひ実行してもらいたい。

確かな学力の育成に向けて、授業第一主義を徹底し、凡事徹底を図っていきたい。先生方には生徒との信頼関係醸成のために、良いところを見つけてほめることをしてもらっている。

豊かな人間性と社会性の育成に向けて、失敗を恐れずに何事にも挑戦してもらいたい。また、ものごと熱中して取り組み、二兎も三兎も追いかけてもらいたい。

キャリア教育の推進に関しては、特に自分の適性・資質・能力を最大限発揮し、やりたいことを見つけてもらいたい。

重点校として学力を伸ばすための進路行事が中心になるが、毎年精査・見直しを行い、直すべきところを直していきたい。

教頭 : 平成30年度学校評価結果を受けて、確かな学力の育成が大事な点となるので、指導力向上のために、校内研修等一層の努力をしていきたい。

大学入試改革や新学習指導要領の導入への準備や対応を含め、これまでの取り組みを見直し、主体的、対話的で深い学びとなるように改善に力を入れていきたい。

教務主任 : 円滑な学校運営を手助けする分掌である。今年度はゴールデンウィークの10連休による調整を行ったが、さまざまなひずみが生じている。新1年生について、高校での学習や生活に対する不安を取り除くために初期指導を取り入れ、2年目である。心身の健康を保つことができるよう、指導していく。2・3年が途中で心が折れないように生徒をよく観察しサポートしていきたい。新教育課程の検討に向けてどのような生徒を育てるかを考え、マネジメントしていきたい。情報機器の有効利用に向けて少しずつ改善が進んでいる。さらに進め、わかりやすい授業の実施につなげていきたい。

生徒指導主任 : 交通安全の呼びかけ、街頭登校指導を実施した。いじめ未然防止に向けいじめアンケートを実施。安全点検を年3回行っている。社会に出た際にできるように、あいさつ・容儀に力を入れているが、強い禁止・命令はしていない。運動部活動等への加入者も減っているが、精神面を鍛える上で、部活動等を活性化していきたい。

進路指導主任 : 先日、進路講話としてJFAナショナルトレセン東北地域チーフコーチの手倉森浩氏に前向きになれる話をしてもらった。医学ゼミナールの際は、弘前大学医学部付属病院の医師である福原理恵氏に講演をいただき、命について考えさせられた。各社の東大入試研究会や東北大入試研究会で得た情報をもとに、何を目的にどう取り組むのかを検討していきたい。大学入試が変わることで後手に回らないように、いつ何が必要なのかを検討していきたい。また、重点校として地域を含め事業を実施していきたい。授業第一主義を徹底し、目先の目標だけでなく、10年後、20年後に活躍する人材を育成していきたい。

評議員赤石氏 : 合格体験記を読むと、文武両道の学校の方針が伝わってくる。また、生徒も自覚していることが現れている。教員と生徒との信頼関係を築く上で、いい状況にあるのではないだろうか。

評議員木村氏 : 日暮橋のコンクリートがかけていて自転車で転んだ女子生徒がいた。

以前報告し、修理してもらったが、現在もコンクリートがかけている状況であるため、早急に関係機関に連絡した方がいいと思う。いじめの防止について、小中学校ではいじめ撲滅の活動をしていると聞くが、高校ではどのように起こるのか教えて頂きたい。将来、英語の授業以外でも英語を使用する環境になるのかどうか知りたい。

生徒指導主任 : 日暮橋の件について、状況を確認し早急に対処したい。いじめに対しては、疑いがあった時点でいじめ防止対策委員会を開くことになっており、これまでは認知件数0件。今年度は疑いで2件委員会を招集したが、いじめと認定せず。未然防止に注力したい。

教頭 : 英語の授業に関して、抽象的な内容の英文は母語を介さずに理解できない部分がある。日常的な会話ではありえるが、それ以上は難しいのではないかと考えている。

評議員川村氏 : いじめ・非行0件というのは素晴らしい。部活内でのハラスメントに関して、生徒対生徒、先生対生徒が考えられる。昔はあったのも事実だが、暴力・暴言はいけないものなので、気をつけていただきたい。

評議員前田氏 : 労働が変わり、社会が変わっていく。それに伴い、指導が変わっていく。大変な時期に入っていくのではないかと思う。それでも、さまざまなことに熱意を持って取り組んでもらいたい。弘高ねぶたの譲渡先について、ねぶたまつりを実施していない町内会などで試しに使うという方法もあるのではないか。